

Introducing My Article

医学教育学分野 原田 芳 巳

Medical School Staff's Standardized Patient Experience Alters their Understanding of Student Education. Harada Y, Kubota Y, Hirayama Y, Otaki J, Mitoma H.

Tohoku J Exp Med, 256 : 63-71, 2022

医療コミュニケーション教育や臨床技能や態度を評価する客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination : OSCE) が全国的に行われるようになり、多くの模擬患者/標準模擬患者 (simulated patients/standardized patients : SP) が必要となる。東京医科大学では、臨床実習後 OSCE において、医療専門職以外の大学職員に SP として協力してもらっている。しかし、学術・医療関係者以外の職員が SP として活動したことは報告されていない。したがって、医学部職員が SP となる意義について検討する必要がある。本研究の目的は、SP として活動することが医学部職員の学生教育に対する理解にどのような影響を与えるのか、また大学職員が自校でどのような教育が行われているかを知ることが有用であるかどうかを明らかにすることである。SP を経験した医学部職員がどのような意識変化を起こしたかを調べるために、混合研究法を活用した。そこで、研究者は、SP として活動した後の職員に質問紙調査を行った。質問票は、半構造化インタビューによって作成した。参加者の回答は、大半が肯定的であった。その結果、「学生の試験に関する知識が得られた」「医師のコミュニケーション能力の重要性がわかった」などの声が聞かれた。さらに、医学部の全教職員が SP を経験すべきとの意見も多かった。医学部職員は SP を経験することで、学生の教育プロセスをより理解できるようになる。日本の SP は高齢化し少なくなっているが、医学部職員で補える可能性がある。

本学の OSCE 実施にあたって SP の確保に難渋

している。「東京医科大学模擬患者の会」を発足させたり、外部の SP 団体への依頼をしたりしてきたが、不十分であった。そこで、ここ数年は本学職員に SP としてご協力をお願いして OSCE を実施してきた。職員の皆様には熱心に取り組んでいただき、学内評価者のみならず共用試験実施評価機構から派遣される派遣監督者や外部評価者からの評価も高かった。

多忙な中、学生教育にご協力をいただいたが、職員の皆様がどのように感じているか、大学教職員の能力開発による教育改善の取組み (Staff Development : SD) に役立っているかという疑問がわいた。そこで、医学教育推進センターの協力のもとに今回の研究を開始した。先行研究がないので、混合研究法 (探索的順次デザイン) を行った。つまり、まず初年度に SP を経験した職員の皆様の面接調査から開始した。面接内容の録音、逐語録の作成から、質的内容分析まで、医学教育推進センターの複数のスタッフの皆様の協力を得て実施された。そして、次年度以降の質問紙調査においても質問紙の配布、回収、まとめと同センターのスタッフの協力のもとに行われた。

本学の全学をあげての医学教育への取り組みに深く感謝するとともに、発信できたことを嬉しく思う。

臨床力のうち「技能」「態度」の領域の学修には SP の協力が必要です。本学では SP の募集をしています。もし、ご興味を持っていただけたら「医学教育推進センター」までお問い合わせください。よろしく願いいたします。